

広報

第70号



令和4年3月

巻頭特集

オンライン 禅をきく会

**法話
施す者も施される者も**

教化センター布教師 三浦 信高

被災地のお寺は今

第12回 忘れないということ

曹洞宗福島県宗務所 人権擁護推進主事 吉岡 統親

令和3年度行事報告

教化資料紹介

令和4年度行事予定



SOTO ZEN

曹洞宗東北管区教化センター

〒981-3117 仙台市泉区市名坂字榴町169-4

TEL.022-218-1381 FAX.022-218-1382

<http://soto-tohoku.net/> e-mail: kyouka@seagreen.ocn.ne.jp

巻頭
特集
1

オンライン 禪をきく会

オンライン配信に 至った経緯について

はじめに、なぜ令和3年度の「禪をきく会」がオンライン配信となるに至ったか、中止となった令和2年度も含め、経緯をまとめました。

◎感染拡大により 令和2年度中止へ

コロナ禍の、2年が過ぎました。世の中の慣習が変わることを余儀なくされた中で、教化センターとしても行事の在り方を再考せざるを得ませんでした。従来の楽楽楽ホールでの開催は令和2年2月の第171回青山俊董老師が最後となりました。その後、感染者数や行事開催の目安などについて、毎日のように協議を重ねながら、結局のところ令和2年度全6回分は

すべて中止の措置を講ずるに至りました。

中止のお知らせを常連の参加者の方々と管区内全寺院へ伝え、ポスター貼付用の中止シールを送付し、ホームページなどでも広報しました。中止を知らずに当日会場へお越しになる方もあって、そうした方々への対応も毎回必要でした。同時に講演を予定してお願い申し上げていた講師の方々にもその都度お断りの連絡を入れましたが、皆様から「誰のせいでもないのだからお気になさらずに」とご了解をいただき、主催者側としては、悔恨の情も募りました。

◎令和3年度オンライン 配信への転換

そうしたこともあり、希望的観測のもとにコロナ禍2年目となる令和3年度は、観客数を半分に設



定し、消毒や体温測定などの感染予防対策を講じた上で、従来に準じる形での有観客開催を全6回企画し、令和2年の年末までには講師依頼やポスターの仮刷りなどを済ませました。

しかしながら程なく宗務庁より、集客しての開催は見送りオンライン開催を検討すべしとの通達があり、急遽大慌てですべての回をオンラインでの開催へ方向転換したのでした。急な変更にもかかわらず、講師の方々はご快諾くださいましたが、懸念事項として聞法者が一人もいない状況で、カメラのみに向かってお話しすることを危惧される方もあったため、宮城県寺族会の方々数名を頼りながら収録に参加して頂きました。実際に収録に立ち会ってみると、なるほど確かに臨場感に富み躍動感あふれる素晴らしいお話をいただくことができました。

以上、オンライン配信に至った概要です。

巻頭
特集
2

それぞれの 視点からの 感想・提言

次に各講師、オンライン配信を視聴された一般の方々、同じく教化センター布教師、それぞれの視点から、今回の禪をきく会を振り返ります。

◎講師の方々からの声

各講師からいただいた声の中には、聞法者の態度や雰囲気、息遣いといった臨場感がない。ホールでの有観客のほうの話しやすい。聞き手の反応がないのは寂しいなど、あまり経験したことのない会場の雰囲気に対するご意見をいただきました。画面越しでは聞法が

単なる知識に終わってしまう可能性があるのではないかとのご指摘もありました。

一方で、予期せぬ遠方の知人より視聴した連絡があったと、オンラインで開催したことのメリットを述べられた方もおられました。

◎DVDレンタルをされた方々の感想

オンライン禅をきく会のDVDレンタルを行った経緯は、今まで禅をきく会を見に来ていただいていたご高齢の方より、インターネットの使い方が分からないので、何か別の方法で視聴できないかという問い合わせが多数あったためです。そこで年間チケットをこれまで申し込まれていた方に限り、DVDレンタル（往復の送料のみ負担）の募集をしました。その方々へアンケートを行い、寄せられたものが以下の感想です。

利点として挙げられたもので最も多かった感想は、繰り返し視聴できるので、自分のペースで理解できるといったものでした。ホールでは聞き逃したまま進んでしまうお話も、巻き戻してゆっくり視聴できる。仏教語など耳慣れない言

葉や解説も字幕で読め、理解が深まることでした。

一方で、ホール会場のような雰囲気を感じられないという指摘も多くの方からいただきました。表情などを見ながら生の声を聴きたいという思いも多く綴られておりました。

動画時間へのご意見もありました。約90分間映像を見続けるには、後半の集中力が続かなくなるといいうものです。画面に向かってお話を聞き続けるのは体力を使うので、60分程度にするか、前半と後半で分けてほしいというものでした。

◎教化センター布教師からの意見

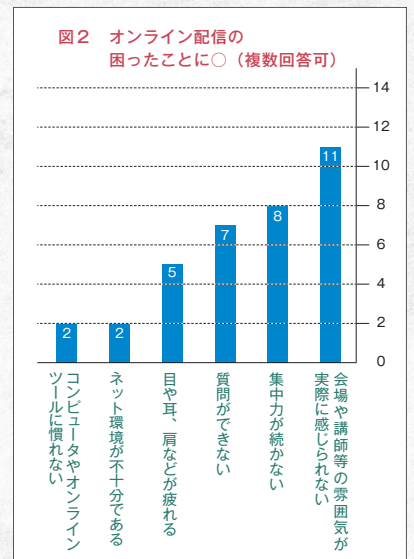
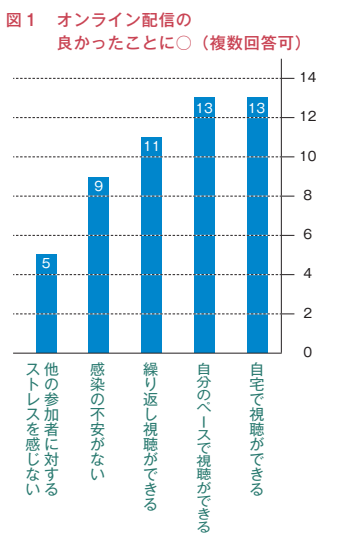
教化センター布教師の方々にもオンライン配信の禅をきく会を視聴してもらい、アンケートを実施しました。加えて9月にオンラインで行われたセンター布教師協議会において、アンケートも踏まえながら、多くの様々な感想、要望や改善点が寄せられました。そのため、ここではアンケートと会議において議論になったことの二つに分けてまとめました。

アンケート結果から

見えてきたもの

オンライン配信による満足度を大変満足、やや満足、やや不満、大変不満の4段階に分けて聞いたところ、回答がそれぞれ9票、5票、0票、0票となり、概ね肯定的なものとなりました。

オンライン配信の良かったことに関しては図1のようになりました。視聴する上での個人が場所、時間を問われない、聞きたいとき、見たいときに接することができるという自由度に対しての利点が指摘されています。また繰り返し見ることや画面を一時停止することによって表示された字句を確認するなど法話に対しての理解度が進むことも回答から寄せられました。これまでは距離やさまざまな制約



によって禅をきく会に参加できなかった人に機会が生まれたことを利点とする声もありました。

オンライン配信の困ったことに関しては図2のようになりました。会場や講師の雰囲気を感じられないという臨場感不足の指摘が最も多くなっています。集中力が続かないのは、いつでも見られるということが逆に作用しているのではという指摘がありました。講師へ質問ができないことも、配信の特性上致し方のないことではあります。現場で参加するより受動的になるとの意見がありました。身体的な疲労も見逃さず、ネット環境の差異、ツールへの慣れに慣れない問題との分析もありました。

他のオンライン動画を視聴した

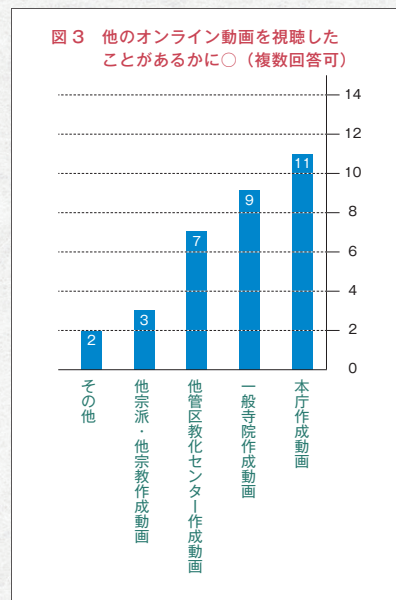
ことがあるかについての回答が図3です。多くの方が様々な布教化の動画に触れていることがわかります。動画サイトの普及またその視聴習慣の定着更にそれに呼応する形で多くの機関が動画を作成し配信しています。今後その流れは変わらないと思われまます。一方でコンテンツが多くなったがために、玉石混交の状況であり、内容の充実を図ることが肝要であると同時に、布教化とは何かということを決えず自らに問うていくことが必要との声がありました。

△会議における様々な提言▽

以下は各師から寄せられた、様々な要望や改善点をまとめたものです。レンタル制度を拡大してほしいという意見が寄せられました。ネットに比べてDVDの方がより多くの人に見てもらえるのではないかとという指摘です。

配信期間の見直しの指摘もありました。配信と配信の期間に空白を作らず、いつでも誰かの動画が見られるようにしてほしいというものです。

字幕やテロップをさらに入れてほしいという指摘が複数寄せられました。それに対し字幕を入れるアプリ



りも存在しますが、多くは仏教語に対応していないこと、さらに作業の負担が増えることも懸念材料として挙げられました。

会場開催と何らかの形のオンライン配信のハイブリッド方式を希望する意見が出されました。また、ネット視聴者のアンケートをとってはどうか。背景があまり映り込まないようにすべき等貴重な意見をいただきました。



準備の様子

巻頭 3 特集

最後に

実際に運営側としてオンライン配信を行ってみて、我々も多くの学びや気づきがありました。また、反省点や課題も明らかになってきました。以下は、ご協力いただいたアンケートや様々なご意見も踏まえながら、反省点・メリット、課題の3点に分けてまとめたものです。

◎反省点

△現場▽

撮影現場で苦心したことは、今まで行ってきたホールでの法話の違いを極力小さくすることでした。違和感なく、講師の方々には法話をしていただき、画面越しで見えていただく聞法者の方々には法話を聞いていただくことでした。

新型コロナウイルス感染症対策として、極力撮影現場での人数を減らし、換気に努めました。特に夏場までの3回の収録は、全国的に感染者数が多い状況下での収録であったため、宮城県宗務所寺院会の収録参加も各回3名までと当初の予定より大幅に減らさざるを得ませんでした。このことは法話

者の各講師にはご苦勞を強いることになったのではないのでしょうか。結果として編集で気付かないレベルまで消すことができましたが、換気のために窓を開けることによって、普段は気に留めることのない生活音(トラックや送迎バスの騒音、緊急車両のサイレン等)が飛び込んでくることに気付かされました。

法話収録日と編集を経ての公開日との時期に多少のずれがあるために、法衣の季節感、何気ない時事の話題、地方の固有名詞に対して違和感を覚える方もいらっしゃったのではないのでしょうか。

他にも、講師の背景に映る一仏両祖像や華燭とホワイトボード等

の使用機材などについて指摘を賜り、回を重ねる度に可能な限りの修正をしました。

△映像▽

令和3年2月に急遽、禪をきく会をオンラインで行うと変更になった際、年度替わりを目前に控え、告知を考慮すると迅速な判断が迫られていた状況もあり、撮影から公開までおおよそ2週間もあれば十分に余裕をもって出来るのではないかと考えて公開日の設定を行いました。

しかし、センター職員4人と前主監の協力を仰ぎ5名で映像のチェックを行いました。いくら分業で行ったとしても、咳払いや言い直しなどのカット部分のチェックといった簡単な作業から、資料の挿入箇所・提示内容・秒単位での時間指定などの確認、人権問題的観点からの幾重ものチェックを含めると、何度も繰り返し映像を見直す手作業が必要となり、土日の檀務の合間や深夜まで時間を要し、公開直前まで全くといっていいほど余裕はありませんでした。実際ある回では、たった3秒のフレーズを消去するために、休日出勤をしたこともありました。

△講師との打ち合わせ▽

法話収録の日程は、もともと会場で法話を行う予定の日をそのまま収録日に充てました。今となってはインターネット上の法話を散見するようになりましたが、当初は目新しい試みであり、法話をインターネット上で公開することを躊躇う講師の方がほとんどでした。そこで詳細な説明をし、YouTubeでの期間限定の公開を提案し、講師ご自身に2週間・1ヶ月・無期限の公開期間の選択をしてもらうこととしました（無期限を選択される方はいませんでした）。goodボタン・badボタンは自分の分以外は押したか否か公開されない設定にし、コメントも書き込めない設定としています。そして、期日を以て公開を取り止めていますが、様々な方法を用いて動画を保存するなどの手法は存在します。法話だけが一人歩きしないか、メディアで報道されているような、所謂「炎上」や、悪しき意図を持つての拡散行為に遭わないかなどの懸念は今も拭い去れません。話の流れや文脈を無視した「言葉の切り取り」など、懸念事項はまだあります。

◎映像のメリット

会場での禪をきく会で資料を配布すると、照明の具合で手許の資料が見づらい、字が小さい、老眼鏡を忘れた、どの箇所なのかわからなかったなどの声がたびたび聞かれます。しかし、編集作業は大変ですが、動画配信では、講師の顔を小さなワイプにするなどして大きな字で適切なタイピングで資料を提示することができました。

会場で聞き漏らせば、それきりですが、希望する箇所を何度も巻き戻してきくことができることは利点となったのではないのでしょうか。

◎課題

宗門も掲げるSDGsでは「誰一人取り残さない」とあります。従来の「禪をきく会」の参加者層は比較的ネットと親和性が低い層でした。高齢者では、インターネットやスマホなどに明るくないだけでなく、そもそも設備を必要としない方々も多いため、オンラインでの視聴はなかなかハードルが高かったように思います。

前述のDVDレンタルの申込も

予想に反し、一部にとどまりました。檀信徒の方にも事情を伺ってみたところ、DVDを見ることも普段ないので機材自体がない。孫に来てもらって高齢者向けスマートフォンで聞けるようにアクセスしてもらい、首から提げてラジオのようにして聞いている、という声も聞かれました。「法話の一人歩き」という問題と相反しますが、検討をより深くする必要がありますと考えさせられました。

各方面から寄せられた声にもありましたが、来年度以降は、感染状況に応じて現地開催とYouTubeでの公開のハイブリッド方式で行いたいと思います。

今年度は急な変更であったため考慮できませんでしたが、提言にもあったように彼岸やお盆など檀信徒の視点で法話などが見たくなる時期にYouTubeの動画が公開されているといった工夫も必要ではないかと考えています。

シリーズ「被災地のお寺は今」第12回

忘れないとどうしようもない



曹洞宗福島県宗務所 人権擁護推進主事 吉岡 統 親

時が経過して

あの東日本大震災が起きてから、まもなく11年の時間が経過します。毎年3月11日には震災被害の大きかった地域を訪れ、慰霊の為に祈りを捧げてきましたが、毎年現地を訪れるたびに整地が施され、新しい家屋が造られ、本当に少しづつではありますが、目の前の景色が復旧の色を帯びてきたように感じます。場所によってではあります。が、若干内陸地へと車を走らせるとあの震災がまるでなかったかのように感じる景色も少なくはありません。10年という時間の経過は考え方によってはかつてあれほどの恐怖と悲しみを突き付けてきた震災への畏れを、私たちの目には見えないところへと運びつつあります。

また、近年立て続けに起こった水害や、なにより国内だけでも1万8千人の死者を出し、※1現在も変異株などの新たな問題が尽きることのない新型コロナウイルスのパンデミックが連日のように報道されることになり、それに反比

例する形で私たちが東日本大震災関連の情報を耳にする機会は減少しているようにも感じていきます。

震災避難者数の問題

最近、国および県などが、福島県の震災避難者数を正確に把握していないというニュースが話題になりました。

福島県のHPで公表している情報では現在約3万6千人としているのに対して、各自自治体による集計によると少なくとも6万7千人にも上るといえるのです。これらの数の違いはそれぞれの集計の方法によるものですが、国や県、市町村の集計手法が直後からばらばらであり、避難者の動きを統一して把握が出来ていないことになりました。

福島県の避難者の集計方法の違い

国	復興庁	戻す意思があれば避難者と定義。総務省が稼働させる全国避難者情報システムで数を集計
県	福島県 県外避難	国の全国避難者情報システムを通じ数を把握
	福島県 県内避難	仮設住宅や親戚、知人宅に仮住まい状態だと避難者。災害公営住宅などへの入居者は含まず
市町村の例	・大熊町 ・富岡町 ・飯館村	住民票移転で避難終了
	・浪江町	震災時に住民登録していた人は今も避難者。災害公営住宅などに移っても避難継続と扱う
	・田村市 ・福島市 ・郡山市	本人が「避難中」と意思表明している人は避難者 国のシステムで把握

いずれにせよ、この統計は復興への道のりが容易ではないことを改めて示しています。

令和三年度東北管区 人権啓発研修会

令和3年度の管区人権啓発研修会は福島県での開催となりました。本県は周知のように、被災3県と呼ばれる中でも、東日本大震災における長期的な被害を受けた地域です。時間が経過したとはいえ、復興には到底至ることのない本県の現状を改めて知っていただく意味で、災害関連の講師をお招きして話を伺いました。

― 研修会概要 ―

第1講 元ラジオ福島・フリーアナウンサー 大和田 新 氏

第2講 シャンティ国際ボランティア会 市川 斉 氏

車内講習 富岡町3・11を語る会 渡辺 好 氏

現地講習 東京電力福島第一原子力発電所内部視察

研修は、当時の富岡町住民でもあった富岡町3・11を語る会渡辺



講演② 市川 斉氏



講演① 大和田 新氏

東日本大震災に関連する福島県内の自殺者数

厚生労働省			
	合計	男性	女性
2011年	10	7	3
2012年	13	8	5
2013年	23	15	8
2014年	15	10	5
2015年	19	10	9
2016年	7	3	4
2017年	12	7	5
2018年	4	4	0
2019年	12	7	5
2020年	3	1	2
2021年	1	0	1
合計	119	72	47

東日本大震災に関連する自殺者数

厚生労働省				
	福島県	宮城県	岩手県	その他
	119	62	55	10
2021年10月までの合計 246名				

たえ専門家による安全性が確保されたうえでの施策であっても、放射能汚染は今までに多くの風評被害やいじめなどの差別を生み出してきました。震災の関連自殺者数は被災3県でも福島県が圧倒的に多く、海洋放出によってさらなる人権的な問

題に発展するようなことがあってはなりません。

風評被害・

いじめなどの人権問題

福島県にある東京電力福島第一原子力発電所の問題は、廃炉作業が30年から40年続くといわれ、明確な見通しが現在もたつていません。それほどばかりか、核燃料の冷却に使用した水（汚染水）のこれ以上の貯蔵が不可能となったため、貯蔵していた汚染水を海洋放出する方針が決定しています。

求められるものとは

「心のケア」というものの重要性が注目されたのは阪神淡路大震災がきっかけだそう。ボランティア、カウンセリング等、この震災から学んだことが東日本大震災にも生かされてきました。

しかし、ずいぶん前のことになりましたが、阪神淡路大震災のドキュメンタリー番組を観たときのこと。私には非常に印象に残っております。震災後数年がたち仮設住宅を解体することになり、最後まで立ち退けずに残っていた老人の孤独と困窮、忘れ去られる不安にスポットをあてた内容でした。東日本大震災から10年が過ぎた今、かつての阪神淡路大震災の時のように、同じ「被災者」であっても立っている環境は大きく変わってきており、取り残され、孤独を抱えておられる方がいるのではないのでしょうか。

忘れないということ

私の住む寺院は福島県内ではあるものの、津波の被害も受けず、放射能汚染も比較的被害の少ない地域にあります。近くて遠い、だからこそ思うことがあります。それは、復興はなされず、近隣に避難者が住んでいるということを知っているながらも、視覚的に復旧した

日々の暮らしの中っていると、震災から自然と心が離れていってしまふ、ということ。しかも、時が経ち、情報が少なくなってくれば、距離のある、被災県でない方たちはよりいっそうではないかと思えます。

今回講演を賜りました大和田新氏が昨年刊行した『続・大和田ノート』という本の序文には「忘れないことが最大の支援です」と記されています。七回忌、10年と時が過ぎ、それを「きり」や「ふしめ」とする言葉を耳にすることも増えました。しかし、時間が経った今だからこそ、忘れないことの意味を問われているようにも思います。震災当時のような炊き出しや、傾聴活動のように、私たちにできることは少なくなってきました。しかし、津波の恐怖を、家族



帰宅困難区域の景色（富岡町）



東京電力福島第一原子力発電所にて

を失った悲しみを乗り越えることができずにいる方たち、故郷を追われ、差別に苦しんだり新しいコミュニティを構築できず孤独に苛まれる方たちに寄り添うためにまず一番大切なことは、「忘れないということ」なのかもしれません。

※1 令和3年12月現在 厚生労働省

令和3年度 行事報告

布教講習会

- ・期日 12月15日 申込締切
- 講習会用動画視聴の上、レポート提出により修了

教化指導員研修会

- ・期日 2月15日 申込締切
- 講習会用動画視聴の上、レポート提出により修了

曹洞宗婦人会東北管区研修会

- ・期日 7月7日～8日 中止(令和4年度へ再延期)
- 会場 岩手県花巻温泉 ホテル千秋閣

特派布教と青森伝道車巡回布教

- ・期日 6月14日～22日 中止

坐禅ナイト2021春

- ・期日 第1回 5月11日(火) 中止
- 第2回 5月18日(火) 中止
- 第3回 5月25日(火) 中止
- 会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

坐禅ナイト2021秋

- ・期日 第1回 11月2日(火) 中止
- 第2回 11月9日(火) 中止
- 第3回 11月16日(火) 中止
- 会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

第53回教化フォーラム

- ・期日 6月25日(金) 中止(令和4年度へ再延期)

第54回教化フォーラム

- ・期日 9月8日(水) 中止(令和4年度へ再延期)

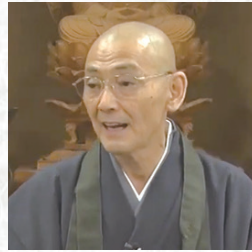
令和3年度 オンライン禅をきく会

・第172回 4月27日(火)～5月27日(木)

●曹洞宗特派布教師・栃木県明林寺住職 西田正法 老師

「老いを生きる」～白秋・玄冬の生き方

・再生数 1851回



・第173回 6月15日(火)～7月14日(水)

●元曹洞宗特派布教師・静岡県成願寺住職 相原昇明 老師

「修証義に学ぶ」

・再生数 944回



・第174回 9月14日(火)～10月14日(木)

●岩手県正法寺専門僧堂堂長 盛田正孝 老師

「禅に学ぶ生き方」

・再生数 956回



・第175回 10月19日(火)～11月1日(月)

●浄土真宗本願寺派・奈良県教恩寺住職 シンガーソングライター やなせなな さん

「悲しみの先に

開かれる世界」

～歌う尼さん

法話コンサート

・再生数 1167回



・第176回 12月21日(火)～令和4年1月4日(火)

●前東北管区教化センター統監・宮城県徳本寺・徳泉寺住職 早坂文明 老師

ピアノ 伊藤智哉 氏

御詠歌 岡崎るみ子 氏

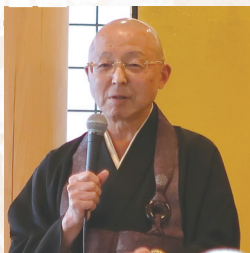
「テレホン法話ライブ

「復興に真一文字」

「はがき一文字写経」に

よる復興の足跡

・再生数 737回



・第177回 令和4年2月15日(火)～3月15日(火)

●学校法人梅檀学園 東北福祉大学学長 千葉公慈 老師

「涅槃会に想う」

～沙羅の林の物語～



法 話 「修証義 第二十一節」

施す者も施される者も



曹洞宗東北管区教化センター布教師 三 浦 信 高

衆生を利益するというは四枚の般若あり、一者布施、二者愛語、三者利行、四者同事、是れ則ち薩埵の行願なり其布施というは貪らざるなり、我物に非ざれども布施を障えざる道理あり、其物の軽きを嫌わず、其功の実なるべきなり、然あれば則ち一句一偈の法をも布施すべし、此生佗生の善種となる、一銭一草の財をも布施すべし、此世佗世の善根を兆す、法も財なるべし、財も法なるべし、但彼が報謝を貪らず、自らが力を傾つなり、舟を置き橋を渡すも布施の檀度なり、治生産業固より布施に非ざること無し。

以前こんなお話を聞きました。
かつて臨済宗の中川宗淵老師が、静岡県三島市の龍澤寺というお寺で、雲水さんと熱海市内で托鉢をされた時、幼稚園児くらいの女の子が、大人がしているのを真似して、道端に転がっていた小石をひろい、中川老師に差し出しました。老師は女の子と同じ目線まで腰をかがめられて受け取ると、女の子は嬉しそうに合掌をして、笑顔で互いに拝みあったと言います。
托鉢が終わって帰ると、その日の一部始終を見ていた一人の雲水さんが、小石を大事そうにしているのを不思議に思い、

「石ころでしよう？なぜ捨てないのですか？」
と尋ねたそうです。すると老師は托鉢袋から石を取り出して答えます。
「道にあったときはただの小石だった、あの時私が合掌して頂き、あの女の子さんが可愛い手で合掌して私に施されたのですから、この小石は仏法が具わった石なのです。だから大切に持って帰りました」。

それ以降、中川老師の机の上には小さな紫の座布団の上に小石が大事そうに飾られていたといえます。
「其物の軽きを嫌わず、其功の実なるべきなり」
布施は誰でもできる仏道の願行です。施しを受ける時は施物の質量ではなく、その尊い仏心に合掌するのです。
檀信徒様が一緒に合掌をして返してください。ありがとうございます。施す者も施される者も互いに合掌して感謝しあう姿は、何ともありがたい瞬間だと感じます。

二十数年前ですが、私は永平寺で修行を終え北陸へ新潟を通り、歩きで約一カ月かけて山形の寺へ帰りました。
手甲脚絆に網代笠、錫杖と背中には笈の代わりにリュックサック。今時めずらしいと格好の理由を聞かれ、行脚の途中であることを伝えると、「がんばれ」「きをつけて」という沢山の言葉をいただきました。ある時は、せっかく買ってきた袋の中から食べ物を分けてくださる方。わざわざ車を止め歩み寄って来てくださった方。道を尋ねただけなのに飲み物まで用意し休ませてくださった方、忙しい中手を止めて声をかけてくださった方もありました。別れ際に合掌でお礼を言いますが、同じように合掌して一言を返してください。あの笑顔の姿は私にとって大切な布施でした。
思い返せば、一日一日歩く速さが遅くなっていた私にとって、皆さんの何気ない言葉や心がどれほど力をくださったことか。翻って自分に問うのです。「僧としてあの小石を受ける心で施しを頂いているのか。道中の方々のような笑顔の人々に向けているのか」と。
修証義は、布施の根本は貪らな

(山形県 藏高院住職)

教化資料紹介

お別れの言葉カード「言の葉」

〜お伝えしたい思いをお書きください〜

グリーンフケアや癒しを目的として、檀信徒向けに作成したお別れの言葉カード「言の葉」。

枕経や入棺時に遺族にお渡しし故人への想いを綴って頂き棺に納めます。

お地藏様と観音様の手紙カードが各1枚、言の葉の由縁でもある菩提樹の葉型手紙カードが6色6枚、合計8枚1組でお届けいたします。

「心の柱」私のよごらいふ

「心の柱」は、「毎日読む経典」＋「書いて残せるノート」です。

人生をよりよく生きるために、心のよりどころを持つことをお勧めするものです。

「柱ポスター」

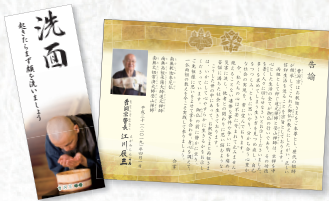
檀信徒の方々へ告諭の敷衍を願い、平成30年度は「坐禪」を、令和元年度は「洗面」をとりあげました。

「坐禪を中心とした生活の全てが御仏の行いである」というお諭しから、朝起きたらまず顔を洗い、それから仏壇に手を合わせ、食事をいただく、そうすれば生活の全てが御仏の行いとなります。ポスターを眼のつく場所に掲げて日々の心の柱に活かしていただき、家族みんなでつとめていただけるよう作成しました。告諭（令和元年度）を中面に配した畳紙（たとうし）とのセットでお届けいたします。

それぞれ教化資料として、ぜひご利用ください。

（資料は無料ですが、送料をご負担いただきます）

※忘れま箋の申し込みは宗務庁にて承っております。



新任 教化センター布教師

栗谷 大三 師 福嚴寺住職
秋田県 第十教区 297番



新任 教化センター主監

三宅 良幹 師 洞林寺住職
宮城県 第十七教区 439番



令和4年度 行事予定

■禅をきく会

第178回 5月20日(金) 正午～7月20日(水) 正午

曹洞宗特派布教師・秋田県恩徳寺住職 岩館 裕章 老師
「『○○菩薩』～○○にあなたのお名前を」

第179回 7月20日(水) 正午～9月20日(火) 正午

駒澤大学仏教学部教授・禅文化歴史博物館長 村松 哲文 先生
「禅を観るー禅美術の楽しみ方ー」

第180回 9月20日(火) 正午～11月20日(日) 正午

大本山總持寺副貫首・岩手県正法寺専門僧堂堂長 盛田 正孝 老師
「利他行 自己のあり様を決める生き方」

第181回 11月20日(日) 正午～

令和5年1月20日(金) 正午
曹洞宗特派布教師・山形県見龍寺住職 池田 好斉 老師
「黙々として」

第182回 令和5年1月20日(金) 正午～

令和5年3月20日(月) 正午
曹洞宗特派布教師・長野県常輪寺住職 中野 天心 老師
「『今、ハハ』の生き方がためされている」

第183回 令和5年3月20日(月) 正午～

令和5年5月20日(土) 正午
学校法人梅檀学園 東北福祉大学学長 千葉 公慈 老師
「釈尊と仏弟子ー初期仏典の物語ー」

※令和4年度禅をきく会のパンフレットをご希望の方は「曹洞宗東北管区教化センター」までお問い合わせください

■教化フォーラム

・期日 中止

・会場 ホテルモントレ仙台

・講師 特派布教師 三部義道老師

第53回 「修証義 第一章～第四章 復習」

第54回 「生きるための修証義 その五」

第五章 ～報恩の生き方～

■教化指導員研修会

・期日 オンラインにて代替受講

■布教講習会

・期日 オンラインにて代替受講

■坐禅ナイト

・期日 2022春 中止

2022秋 中止

・会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス
午後7時半～午後9時

教化センター HP



曹洞宗東北管区教化センターテレフォン法話 心の電話

24時間
年中無休

フ・イ・ヤ・ヨ・シ・ヨ・シ
022-218-4444